

小学校第5学年  
体育（運動領域）



**端末を活用し、思考を深め、課題の解決を図る。**

# 小学校第5学年 体育（運動領域） 「走り高跳び」

## ■単元の目標

- (1) 走り高跳びの行い方を理解するとともに、リズムカルな助走から踏み切って跳ぶことができるようにする。
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3) 走り高跳びに積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

## ■単元の概要

走り高跳びは、試技の回数やバーの高さの決め方などのルールを決めて、リズムカルな助走から力強く踏み切って高く跳んで、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。本単元では、単元前半は運動の行い方を理解し、自己の記録への挑戦をする時間、単元後半はルールを選んで競争や記録への挑戦をする時間を設定することで、自己の課題に応じた練習に取り組んで記録に挑戦したり、自己の能力に適したルールで競争を楽しんだりすることができるようにする。

## ■単元の指導計画（7時間）

### 第1時

「オリエンテーション」

- ・単元の学習の見通しをもつ。
- ・本時のねらいを理解して、目標を立てる。
- ・準備運動、主運動につながる運動の行い方を理解する。
- ・走り高跳びをする。 など

### 第2時、第3時

「記録への挑戦をする」

### 第4時～第6時

「競争や記録への挑戦をする」

### 第2時～第6時

「課題に応じた練習をする」

### 第7時

「学習のまとめ」

- ・単元を振り返り、学習のまとめをする。 など

## ■小単元の概要

走り高跳びの行い方について、学習資料や端末を活用したり、実際に動いたりしながら理解することができるようにする。

走り高跳びの行い方を理解して、自己の記録へ挑戦する（第2時、第3時）。  
自己やチームに適したルールを選んで、競争や記録への挑戦をする（第4時～第6時）。

端末を活用して、動きのポイントと照らし合わせて自己の課題を見付け、自己に適した練習方法を選ぶ。

競争や記録への挑戦をして、学習のまとめをする。

## ■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第5時）

### 【学習活動の場面】

本時（第5時）のねらいを「リズムカルな助走を意識した走り高跳びで、競争や記録への挑戦をしよう」と設定した。授業の前半は「自己やチームに適したルールを選んで、競争や記録への挑戦をする」学習活動を行った。授業の後半は、**端末を活用して、動きのポイントと照らし合わせて自己の課題を見付け、自己に適した練習方法を選ぶ学習活動を行った。**単元の前半は記録が伸びていったB児だが、単元の後半になるにつれ、記録が思うように伸びなくなっていた。

### 【子供の「深い学び」の姿】

#### **端末を活用し、自己の動きの変化を見付ける。**

端末を使い、児童は毎時間自己の動きの確認を行った。

単元の後半、記録が思うように伸びなくなり、意欲が低下しかけたB児には、助走がリズムカルに行えていることを教師が価値付けた。その際、**動画を繰り返し視聴し、動きがよくなったポイントを具体的に示しながら伝える**ことで、B児は自信を深めた。また、体育の見方・考え方である体力の向上につながっていることも実感した。

#### **試行錯誤を重ねながら課題の解決を図る。**

助走の動きが高まってきたことを実感したB児は、教師の助言も踏まえ、踏切りに着目した。**クラウドに保存された自己と仲間の踏切りの動きを見比べる中で、踏切りだけではなく、上体が起きていないという新たな課題に気付いた。**そこで、踏み切った後の上体の様子を動画で撮影してもらい、視聴→試技→視聴を繰り返しながら、上体を起こして力強く踏み切る動きの習得に取り組んだ。

### 【当該指導での「深い学び」】

記録が思うように伸びなくなったB児に、教師は動きの変容を価値付けたり、体育の見方・考え方に気付かせたりした。その結果、B児の意欲が高まり、新たな課題の解決に向かっていった。さらに、**クラウドに保存された仲間の動きを参考にする**ことで、**課題の解決に向けたヒントを得たり、自己の動きを撮影し、その場で思考し、判断しながら試技を繰り返すことで動きの習得につなげることができた。**

## ■指導上の工夫とICTの利活用

### ①記録の捉え方を押さえる。

\*学習が進むにつれて記録が頭打ちになることは自然なことであり、その中で少しでも自己の記録を伸ばすことが大切であることを押さえる。

### ②記録だけでなく、個々の動きの変化を端末を活用して価値付ける。

\*教師が、クラウドに保存された動画を活用し、児童の動きの変化に着目して価値付けることで、自己の体の動きが高まっていることを理解することができるようになる。

### ③クラウドに保存された自己と仲間の動きから、課題の解決に向けたヒントを得るように促す。

\*見る視点を助走、踏切り、空中動作、着地の四つに絞り、それぞれの動きのポイントを学習資料や端末にまとめておく。その上で、個々の毎時間の動きをクラウドに保存しておくことで、自己の動きと仲間の動きを照らし合わせながら課題を見付け、自己に適した練習方法を選ぶことができるようになる。



仲間の動きを撮影する



動きの変化を見付ける

# 学習指導要領や解説との関連

## 小学校学習指導要領 第2章 第9節 体育

### 第2の〔第5学年及び第6学年〕の2のC 陸上運動

(1) 次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技能を身に付けること。

エ 走り高跳びでは、リズムカルな助走から踏み切って跳ぶこと。

(2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

### 第3の1の(1)

(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決のための活動を選んだり工夫したりする活動の充実を図ること。

### 第3の2の(3)

(3) 第2の内容の指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、各領域の特質に応じた学習活動を行うことができるように工夫すること。その際、情報機器の基本的な操作についても、内容に応じて取り扱うこと。

## 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編

### 第2章第2節の〔第5学年及び第6学年〕のC 陸上運動 (1) 知識及び技能

#### エ 走り高跳び

- リズムカルな助走からの走り高跳び
  - ・ 上体を起こして力強く踏み切ること。

### 第2章第2節の〔第5学年及び第6学年〕のC 陸上運動 (2) 思考力、判断力、表現力等

- ICT 機器を活用して自己の課題を見付ける例
  - ・ 自己や仲間の走りや跳び方の様子をタブレットやデジタルカメラなどのICT機器を活用して確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己やグループの課題を見付け、自己の課題に適した練習方法を選ぶこと。